

独立行政法人水産総合研究センターの平成 16 事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、独立行政法人評価委員会による平成 16 年度の総合評価が「A」評価であったこと及び評価委員会における指摘がなかったこと等から、役員交代等は行わなかった。
----------	--

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	16 事業年度評価における主な指摘事項等	平成 17 及び 18 年度の運営、予算への反映状況
管理事務業務の効率化	研究管理業務については、研究開発の進行管理を適切に実施することにより、着実な研究開発目標の達成を期待する。	中期計画に掲げた研究開発目標の着実な達成を図るため、研究部長・室長が個々の研究課題についてきめ細やかな指導を行い、進捗状況を把握、管理するなど、適切な進行管理に努めている。さらに、第 2 期中期計画においては、中課題レベルの進捗状況を進行管理表による管理により一層高度化することとし、第 2 期中期計画の一般研究課題の採択段階から中課題の進行管理を行う担当者を定め、より一層、課題達成に向けた協調・協力体制の強化を行うこととしている。
競争的環境の醸成	外部資金獲得への取り組み、努力は評価する。また、内部における競争的環境づくりは大切なことであり、一層の進展と深化を期待する。	引き続き、競争的資金獲得への支援を通じて外部資金の積極的獲得に努めるとともに、一般研究課題の採択及び交付金プロジェクト研究等に対する評価を踏まえた研究資源の重点配分等により内部の競争的環境の醸成に努める。
経費節減に係る取り組み	開発センター、日裁協と内容の異なる組織の統合で、当分の間、苦勞が多いと考えられるが、継続的努力で、統合のメリット発揮を期待する。 引き続き経費の削減への努力を期待する。	平成 16 年 8 月に本部事務所（横浜、神田、紀尾井町）を統合（横浜）したことにより、各事務所にあった管理業務部門を 1 本化することにより経費の削減に努め、職員間の融合、情報の共有及び業務の迅速化が進んだ。 経費の効率的な節約のため、本部及び各場所の光熱水料、通信運搬費及び消耗品費の節約等に取り組み、コピー用紙の裏面使用を呼びかける等の職員の意識向上にも努めた。

独立行政法人さけ・ます資源管理センターの平成 16 事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、独立行政法人評価委員会による平成 16 年度の総合評価が「A」評価であったこと及び評価委員会における指摘がなかったこと等から、役員交代等は行わなかった。
----------	--

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	16 事業年度評価における主な指摘事項等	平成 17 及び 18 年度の運営、予算への反映状況
業務運営の効率化に関する事項	民間移管、技術移転がスムーズに進むよう引き続きの努力を期待する。	資源増大のためのふ化放流を行っている事業所のうち、17年度は、中川及び鶴居(第2施設)、18年度は、計根別、敷生及び知内の各事業所を廃止し、施設は北海道へ、業務は民間へそれぞれ移管した。なお、18年度をもって計画どおり終了した。 技術移転をスムーズに進めるため、業務移転先の民間から周年にわたり研修員を受け入れるなど、移管先と連絡を密にして対応した。
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	これまで北海道において行ってきたさけ・ます類の系群保全のためのふ化放流を、本州においても積極的に行えるように調査・研究を促進する必要がある。	17年度は前年度に引き続き岩手県釜石市に季節事務所を設置し、ここを拠点として、本州の太平洋域及び日本海域のモニタリング調査等を実施した。 18年4月の水産総合研究センターとの統合に当たって、本州の東北区水産研究所及び日本海区水産研究所にさけますの調査等担当部門(調査普及課)を設置し、職員を配置した。
経費節減に係る取り組み	節減分は優先順位を示し、有効活用をする必要がある。	節減した経費については、業務の遂行に必要な研究環境の整備等を優先順位を定めた上で計画的に実施し、有効活用を図っている。